

第5次日野市特別支援教育推進計画進行管理表

資料⑥

推進目標1 幼児期から学校卒業後まで、かしのきシートを活用した切れ目のない相談・支援体制を市全体で構築します。

	施策内容	方向性	重点	令和4年度までの具体的施策	令和3年度の実績・達成内容	令和3年度達成状況	施策項目に関する課題 (事業における課題を含む)	令和4年度に 取り組む予定の事業
1-(1)	エールにおける総合的な相談・支援体制の充実	継続		<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育総合コーディネーター並びに就学相談員を複数名配置し、速やかに相談ができ、適切な支援につながる体制を充実させる。 ○保健師・心理士・スクールソーシャルワーカー等専門職と連携を図り、総合的な相談・支援体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度より指導主事1名をエールに配置。学校との連携について、協力や助言をもらい支援を行ううえでの一助となりはじめている。 ○課長補佐を相談支援担当として配置し、各部門間の情報共有を図った。 ○エール利用者数1,714人 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ○エールにおける指導主事の役割をもっと明確にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心理、OT、PT、計画相談、保健師、スクールソーシャルワーカー、就学相談員等、各部門からなる部門会議を開催し、さらなる専門職の連携と総合的支援を目指す。
1-(2)	エールを中心とした関係機関との連携支援体制の充実	継続		<ul style="list-style-type: none"> ○発達支援関係機関連携協議会の開催。 ○福祉と教育の一体化に加え、医療、保健等との連携支援体制の拡充を図る。 ○小・中学校との情報共有による、連携支援体制の強化。 ○幼稚園・保育園、高校等とも情報交換を行う機会を作り、連携支援体制を拡充。 ○子ども家庭支援センターと定期的に情報交換を行い、連携した支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達支援関係機関連携協議会を開催(R3.7.13)し、様々な意見をいただいた。 ・学校と放デイとの連携にエールの協力を。 ・発達検査の拡充の可能性 ・利用者の利便性の検討をお願したい(市の南側にも施設を) など ・SSWの活用をもっと学校に周知してほしい。 ⇒併任は、福祉と教育の一体化を実現していくために重要であると考えており、そのためにも(仮称)子ども包括支援センターでの業務を行うための準備をしている。 	達成		<ul style="list-style-type: none"> ○発達支援関係機関連携協議会を開催し、関係機関との連携について議論を深める。 ○スクールソーシャルワーカーと子ども家庭支援センターとの共有会議を継続して実施する。
1-(3)	「かしのきシート」による支援情報の共有と内容の充実	充実	☆	<ul style="list-style-type: none"> ○「かしのきシート」の運用により、関係機関との切れ目のない支援を実施。 ○つまずき解消事例集等を通して、教員の特別支援教育への理解を深め、かしのきシートに反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「かしのきシート」の作成等については、コロナ禍にあつて説明動画を作成し、啓発を図った。 ○市内保育園・幼稚園・小中学校の76拠点をシステムで運用 ○かしのきシート作成者数2,462人 	一部達成	<ul style="list-style-type: none"> ○「かしのきシート」の研究・啓発の方法の検討 ○システムの更新の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○システム更新作業で各保育園・幼稚園を訪問し、今一度、かしのきシートの重要性や理解を促す。 ○かしのきシートマニュアル整備を検討する。

推進目標2 全ての学校、教室において、子どもの特性への理解を図るとともに特別支援教育の視点を生かした質の高い教育を行います。

	事業内容	方向性	重点	令和4年度までの 目指すべき方向性	令和3年度の実績・達成内容	令和3年度 達成状況 (R4.1月 末)	施策項目に関する 課題 (事業における 課題を含む)	令和4年度に 取り組む予定の事業
2-(1)	教員の理解並びに指導力向上に向けた取り組みの推進	推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○ひのスタンダードを基本に、全校において、授業のユニバーサルデザイン化の取り組みを推進します。 ○教員の職層や経験に応じた特別支援教育に関する研修を実施。 ○特別支援学級の教員に対し、学識経験者や特別支援学校教員等から助言を受け、指導方法の改善を図る。 ○特性理解や合理的配慮について、意識啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クロームブックを活用し、指導法の工夫や改善を行うことができた。 ○特別支援学級等に関する全教員が研修に参加し、指導方法の改善を図ることができた。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ○ひのスタンダードを基本に、全校において、授業のユニバーサルデザイン化等を含めた、特別支援教育に関する教員の指導技術向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な学び、学びあいを実践し、特にクロームブックを活用した授業改善を継続する。 ○特別支援学級等の教員に対する研修会の充実を継続し、特別支援学級等の教員の資質向上を図る。
2-(2)	ひのスタンダードの実践及び改善 ～自分に合った多様な学びと学び方を視野に入れて～	実践・改善	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○第3次日野市学校教育基本構想の趣旨を踏まえ、ひのスタンダードの実践及び改善を進め、通常級において特別支援教育の視点を持って学習環境や指導方法の充実を図る。 ○研究成果を報告書にまとめ、教員に配布し、共有化を図る。 ○国や都の委託事業や補助事業を活用し、研修成果を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーター研修会等において、『小学校つまづき解消実践事例集&つまづき解消における考察』及び『中学校教科別つまづき解消における考察と実践事例集』を紹介し、児童生徒への指導法について共有した。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ○全校において、授業のユニバーサルデザイン化等を含めた、特別支援教育に関する教員の指導技術向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職を対象とした特別支援教育の研修を行い、各校における特別支援教育の充実を図る。 ○都の委託事業を受け、各校に校内におけるインクルージョンの取り組みを推進する。
2-(3)	校内委員会を中心とした学校における支援体制の充実	継続	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーターの複数指名を推進する。 ○校長、副校長、コーディネーターなどへの研修やマニュアル活用により、校内委員会の充実を図る。 ○不登校児童・生徒の特別支援の必要性の理解啓発及び関係機関とのつながりによる支援強化を充実させる。 ○校内委員会を支援委員会と位置づけ不登校児童・生徒の対応を行う。 ○専門委員会の実施や、巡回相談員の派遣を実施。 ○特別支援教室巡回相談心理士の派遣を活用し校内委員会への助言を実施。 ○必要に応じて医師等の専門員やエール専門職の協力や参加を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○半数以上の学校が、特別支援教育コーディネーターの複数指名を行った。 ○不登校児童・生徒に対し、SSWが関わり、支援を強化した。 ○専門委員会の実施や、巡回相談員の派遣を実施した。 ○特別支援教室巡回相談心理士の派遣を活用し校内委員会への助言を実施した。 ○ステップ教室運営マニュアルを改定。校内委員会の記録様式を必須作成とし、校内委員会で検討すべき事項について明確に示した。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ○専門委員会については、今後の在り方を検討していく。 ○通常の学級に在籍する児童・生徒に対する支援について、校内委員会で支援レベル1～3における学校の手だてとその評価を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○専門委員会の趣旨を合理的配慮に係る相談委員会に変更し、各学校に合理的配慮についての指導助言を行っていく。 ○通常の学級に在籍する児童・生徒に対する支援について、校内委員会で支援レベル1～3における学校の手だてとその評価を明らかにする。
2-(4)	学級支援員(介助員)の活用の充実	充実	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○特別に配慮が必要な児童・生徒に対し、学級支援員(介助員)を配置。 ○保護者や教員と共通理解を図りながら配置します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校からの要望に対し、人の配置はできたが、希望する日数の配置はできなかった。 ○支援員40名、介助員24名を配置した。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ○学級支援員や介助員の配置はすべて希望通りにはできないため、指導主事等と連携し、各学校の状況を確認し適正配置を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別に配慮が必要な児童・生徒に対し、学級支援員(介助員)を配置していく。 ○保護者や教員と共通理解を図りながら配置していく。

推進目標3 一人ひとりの子どもが安心して豊かに学べる教育環境を整備し、新たな特別支援教育推進体制を構築します。

	事業内容	方向性	重点	令和4年度までの 目指すべき方向性	令和3年度 の取組・達成内容	令和3年度 達成状況	施策項目に関する 課題 (事業における 課題を含む)	令和4年度に 取り組む予定の事業
3-(1)	ステップ教室等における特別支援教育推進体制の充実	充実	☆	<p>○巡回指導教員と学級担任との連携強化を図る。</p> <p>○児童・生徒及び保護者や関係者に対し、子どもの特性や教育的支援の理解啓発を図る。</p> <p>○障害種別毎の研修の充実により、専門性の向上を図る。</p> <p>○教育的支援を受けていない児童・生徒を支援する仕組みを検討。</p>	<p>○保護者向けの発達支援講演会については、以下のとおり実施する予定です。</p> <p>【テーマ】 発達が気になる子への支援 ～学校・家庭で出来ること～</p> <p>【講師】 日野市特別支援教育総合コーディネーター 宮崎氏</p> <p>【実施方法】 You Tube配信による</p> <p>【配信時期】 令和4年3月1日～4月30日</p>	概ね達成	○講演会の実施方法の検討	<p>○継続して実施する。</p> <p>○講演会については、工夫して実施する。</p>
3-(2)	ニーズに応じた特別支援学級の新設	決定～実施		<p>○小学校自閉症・情緒障害学級の設置</p> <p>○各年度において対象児童・生徒を把握し、増級について順次対応。</p> <p>○スクールバスについては効率的に運行し、公共交通機関の利用についても発達段階等を踏まえ検討。</p>	<p>○小学校の自閉症・情緒障害学級の設置について、庁内において決定。</p> <p>【設置校】東光寺小学校</p> <p>【開設時期】令和5年4月</p> <p>【今後のスケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会の設置 ・保護者への説明 ・就学相談の実施 など <p>○今後設置の小学校の自閉症・情緒障害学級は、スクールバスの運行はしない。現在運行しているバスについても、今後の廃止を含め検討していく。</p>	概ね達成		<p>○自閉症・情緒障害固定学級開設への準備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設準備委員会の開催 ・他市の自閉症・情緒障害固定学級への視察 ・就学相談委員会の実施 ・保護者、市民への周知 <p>○スクールバスの運行について検討する。</p>
3-(3)	リソースルームによる個別指導・支援の充実	継続		<p>○ステップ教室との役割や連携について確認するとともにリソースルームティーチャールの指導力向上を図る研修を実施。</p>	<p>○コロナ禍のため、オンラインでの研修を行った。</p> <p>○2回実施した。</p>	概ね達成	○研修会の実施	<p>○リソースルームティーチャーへの研修等の方法を見直し、実施する。すべてのリソースルームティーチャーが研修を受講できるよう、紙面開催やオンデマンド開催等を検討し、実施する。</p>

推進目標4 家庭や地域との連携を一層進め、共生社会の実現を目指します。

	事業内容	方向性	重点	令和4年度までの 目指すべき方向性	令和3年度 の取組・達成内容	令和3年度 達成状況	施策項目に関する 課題 (事業における 課題を含む)	令和4年度に 取り組む予定の事業
4-(1)	市民に向けた共生社会の理解・啓発の推進	継続		<ul style="list-style-type: none"> ○広く市民に向けて特別支援教育や共生社会、障害者差別をテーマにした講演会を実施。 ○特別支援教育に関するリーフレットを作成・配布し啓発を図る。 ○家庭との情報共有、理解により、適切な教育的支援を実施。 ○互いに人格と個性を尊重しあう共生社会の実現を目指し、一緒に学びあう学級づくりを奨励します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在、リーフレットを作成中。2月中の配布を目指している。 	一部達成		<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度の配布に向けて内容の見直しと配布を行い、関係機関の特別支援教育への理解を深める。
4-(2)	交流及び共同学習の推進	継続		<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級と特別支援学校、通常学級の交流や共同学習を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日野第三中学校区における小中学校及びわかば教室において、交流及び共同学習を進めた。コロナ禍ではあるが、オンラインによる交流も行うことができた。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ○日野第三中学校区における小中学校及びわかば教室における実践を他校にも広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職研修会や全職員対象研修会を開催し、全小中学校における特別支援学級と特別支援学校、通常の学級の交流や共同学習を推進する。
4-(3)	副籍制度の推進	継続		<ul style="list-style-type: none"> ○副籍制度について、相互理解と協力のもと、豊かな交流を実現する。 ○教員の理解を深め、交流体制の充実を図る。 ○児童・生徒、保護者が交流等を通して理解・啓発を推進する。 ○教員が特別支援学級と特別支援学校を相互に訪問し、交流への参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症拡大のため、休校、学級閉鎖等があったため、直接交流ができない学校もあったが、可能な方法を検討し、進めた。 	概ね達成		<ul style="list-style-type: none"> ○継続して実施する。
4-(4)	特別支援学校との連携	継続		<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校を中心に、研修会や連絡会で連携を図る。 ○特別支援学校教員が小・中学校を訪問し、専門的な情報の共有や助言を実施。 ○特別支援学校研修などを通して、相互の指導力向上を図る。 ○就学相談や入級・転学相談における連携・情報共有の強化を図る。 ○エールやかしのきシートの取り組みについて連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達支援関係機関連携協議会に七生特別支援学校長に出席いただき意見をいただいた。 ○七生特別支援学校に職員が見学に行き、情報交換を行った。 ○本年も就学・進学相談会(全5回)に七生特別支援学校の教員に観察等をお願いし、意見をもらった。 ○令和4年度に向けた就学・進学説明会は、コロナ感染症拡大の状況や、広く周知を行うため、令和4年4月から令和4年5月までの間動画配信を行った。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ○就学・進学説明会の実施方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度に引き続き、就学相談中の児童・生徒のについて情報共有を密に行い、適切な就学先の検討を行う。判定後の児童・生徒の資料については、迅速に特別支援学校へ共有する。 ○令和5年度に向けた就学・進学説明会を開催し、特別支援学校を含めた、日野市の特別支援教育についての情報を広く保護者に提供する。
4-(5)	放課後等デイサービス等との連携	連携		<ul style="list-style-type: none"> ○発達支援関係機関連携協議会等を活用し、情報共有や連携、教職員の理解促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達支援関係機関連携協議会を開催した。→(7月13日実施) ○令和2年度にいただいた意見に対し、回答した。 ○放課後等デイサービス代表からは、「学校現場と放課後デイの指導が一致しているかの懸念がある。進路の相談がされたときに一緒に相談できる組織があるとよい。」などの意見をいただいた。 	達成		<ul style="list-style-type: none"> ○発達支援関係機関連携協議会の開催 ○児童発達支援事業所との意見交換会の実施
4-(6)	保護者同士の情報共有	推進		<ul style="list-style-type: none"> ○保護者同士の交流の場を設けるよう働きかけを実施。 ○必要に応じて専門職が参加し、子どもの発達が気になる保護者が孤立感等を軽減できるよう、集まれる親の会の活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施せず 	未達成・未着手	<ul style="list-style-type: none"> ○withコロナにおける新たな交流の場の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どのような交流の場が必要か、また交流の場の実施方法を検討する。